

平成 30 年度 第 1 回デ活シンポジウム

「レジリエンス力を高めるフレームワークー企業・自治体の取り組みに学ぶー」

日時 平成 30 年 6 月 22 日（金）10:00～12:10

場所 全国町村会館 2 階ホール

挨拶

竹内 英（文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長）

文部科学省地震・防災研究課の竹内と申します。本シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。まず、6 月 18 日に発生した大阪府北部地震において亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

今回の大阪府北部地震でも、長期にわたる交通機関の混乱や断水、ガスの供給停止等、ライフラインの途絶が起きています。震度 6 弱の地震は日本中どこでも起こり得る状況にある中で、このような地震が発生し、このような影響があったことについて、地震に備えたレジリエンス総合力向上の重要性が社会的に改めて認識されたと考えています。

首都圏には人口、企業、GDP が集中しています。企業の本社機能の半数が首都圏に集まっている状況を踏まえると、首都圏で巨大地震が発生した場合のレジリエンス対応の重要性が、社会的にもますます認識されていく状況だと思えます。

本プロジェクトでは、首都圏の稠密な地震観測網による防災ビッグデータを整備し、このデータを地震発生時のレジリエンス対応に生かしていくことを、皆さまとともに実現することを目的としています。

さらに今年度からは、内閣府の官民研究開発投資の増大を目的とした PRISM というプログラムも始まり、防災はその領域の一つとなっています。本プロジェクトでもこの枠組みを活用しつつ、首都圏の一層のレジリエンス向上のために皆さまに取り組んでいただければと考えています。

このデータ利活用協議会は昨年 6 月の発足から 2 年目を迎え、いよいよ具体的な成果を出す時期に来ていると考えています。本日まで参加いただいた皆さまに感謝を申し上げますとともに、イベント・シンポジウムに参加いただいた皆さまを中心に、企業・自治体等の方々と協力しながら、レジリエンス向上のための具体的な取り組みを進めていければと考えています。本日は活発な議論を頂き、レジリエンス向上

に向けた取り組みがより一層推進することを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。